

公益社団法人日本ビリヤード協会平成 29 年度事業報告

1 組織として

規程の整備・指導員制度と審判員制度の策定

指導員制度、審判員制度、資格認定制度の策定が要求されています。実稼働するまでには解決すべき課題が多いのですが、まずは制度の明文化を目指します。健全なスポーツ団体として必須の事業であり、世界的な潮流でもあります。それ以外にもスポーツ団体として公認されるために必要な規程の整備に取り組んでいます。

指導員・審判員制度の策定と稼働に向けて各団体と調整中で、順調に進捗しています。新規倫理規程の準備を終え、本総会にて諮らせていただく為、その他の規程についても改定案を作成済みです。理事会承認の規程についても多くを見直しました。

2 普及事業

生涯スポーツとしての普及・ジュニア対象イベントの開催

シニア世代へアピールすべき点は適度な運動量、頭を使うことによる認知症防止、コミュニケーションツールとしての活用などです。現在増えている高級高齢者施設では入居者のニーズに応える姿勢をとっており、ビリヤードに関する問い合わせが多々ありました。今後も講師の派遣依頼などがあればできるだけの協力をお願いします。協会は全撞工の協力のもと、公共の高齢者施設にテーブルの貸与・贈呈を継続します。ジュニア世代への普及も業界の将来を見据えるとももちろん重要です。児童館などからオファーが来れば極力対応して頂くように願います。

いずれの場合も経費がかかることですので、一度二度はボランティアであっても、それが度重なるようでしたら本部にご相談ください。若干の補助は検討いたしますが、基本は支部単位の事業と認識してください。

なお、各地のイベントで使用可能な協会所有のミニテーブルが用意してありますので必要の際は事務局にご連絡ください。引っ越し便で送ることができます。

ミニテーブル活用書を作成中です。去年のスポーツフェスタに於いては、例年通りにキッズを対象とした普及事業を行いました。なお、普及活動全般に必要な事業資金が不十分ですので、これを確保する手段を検討しています。

学校対抗・学生選手権

学生層には、競技種目としての認識を広める目的で学校対抗選手権と学生選手権を継続しています。学校対抗選手権はかなりの事業支出を伴いますが、絶対に継続すべき大会と認識しています。昨年度より全日本学生選手権は全日本選手権とセットで開催しております。今後は全国規模で参加者数を増す努力をしなければなりません。

学校対抗は全国からの予選通過 16 校 32 人が参加。規模拡大を目指し今年も各支部の協力をお願い致します。学生選手権はフルエントリーで 35 人の参加がありました。今後の発展を目指し課題を修正してまいります。

3 強化事業

ユニバーシアード

2017 年台北開催のユニバーシアードにビリヤードがデモンストレーション種目として採用され、男子 2 名を派遣しました。事務局と JOC 間の連絡不足で女子の出場が成らなかったことを反省し、今後の再発防止に努めます。ただ、今後のユニバーシアードにおいてビリヤードが採用される情報は残念ながら入っておりません。

男子ダブルスの部で銀メダルを獲得しました。

ジュニア

ここ数年、日本のジュニアクラスはかなり充実していましたが、そのメンバーが徐々にジュニアを卒業しプロに転向するなど世代交代の時期にあります。このクラスは常にメンバーが補充されなければならないのですが、全国的に選手層が薄くなっているのが現状です。タレントの発掘と育成は重要な課題であり、ジュニアの充実はそのまま普及にもつながります。同時に、ジュニア・学生層への普及は体協加盟や地区教育委員会と繋がる有効な手段であり、組織の発展と評価にも影響します。各支部から各加盟店舗に協力いただけるようご尽力願います。

アジア選手権大会に男女各 2 名を派遣、男子ペアで優勝。世界選手権大会には男女各 2 名を派遣、女子 5 位タイが最高位。

5 国体デモスポ競技・国体記念大会

国体は平成 29 年鹿児島まで参加が決定しています。県単位で見ると若干組織力の弱い県が続くので、開催県の地元支部による応援が必要不可欠です。行政との連携が必要で、早めにこちらから動く必要があります。

福井県の国体記念大会に位置付けられる大会が、県民参加プログラムの冠名で行われました。愛媛県の国体デモスポ競技も行われています。

今後の国体デモスポ協議開催に備えての対策として、国体デモスポ競技・国体記念大会の開催手引き・開催マニュアル、加えて県協会設立のガイドも作成しました。

6 国内大会

カレンダー掲載の開催トーナメントスケジュールに抛り行われています。

7 海外大会選手派遣

プール、キャロム、スヌーカーの主要大会に継続的に代表派遣をサポートしています。

ワールドゲームズ男子 9 ボール男子シングル 3 位の大井直幸プロ、女子 3C 世界選手権優勝の肥田緒里恵プロなどの活躍がありました。スヌーカーも若手新人が挑戦中。

8 各種委員会

アンチ・ドーピング委員会

実際に検査対象となるトップ選手の属する JPBA と JPBF、そして NBA 本部で構成されています。TOTO の助成を受けるために必要な申請も行っています。

今年度は 3 大会で 6 検体の検査を行いました。

CS 委員会

現行の web による登録システムに関するサポートを事務局と共同で行っています。

システムを運営しているシュクミネットと連携して改善を進めていきます。

協力金委員会

協力金の管理と運用を管轄しています。正常に回転しています。

ルールブック委員会

ポケット・キャロム・スヌーカーの各団体の協力を得て、必要に応じたルール改正を行っています。

キャロムは世界基準に合わせて改定中、スヌーカーは軽微な変更がありました。